

ロバート・スミスの音楽嗜好 (1)

——1813年の楽譜・音楽蔵書競売目録の調査を通して——

吉江秀和

ロバート・スミス Robert Smith (1741-1810) は、18世紀後半から19世紀初頭のロンドンでワイン商を営んでいたアマチュア音楽愛好家である。彼の自宅を中心に、1783年からグリー・クラブ the Glee Clubの前身となる集いが開催され、彼は1787年に正式にグリー・クラブとしてソサエティの活動を開始した。スミスはその後もこの団体の中心メンバーとして運営に携わっていた⁽¹⁾。更に、彼は少なくとも1780年代から古楽アカデミー the Academy of Ancient Musicの運営においても、主導的な立場にいた可能性が高い(吉江2012)。しかしながらスミスに関する言及は、ローによるスミスの略歴を明らかにした論文(Roe2003)以外では、グリー・クラブの創設者やヘンデル作品蒐集家として(King1963)のものに限られている。また、彼の死後1813年におこなわれた彼の膨大で貴重なコレクションの競売目録が残されているが、これまでこの貴重な資料もヘンデル作品以外で十分に精査されることはなかった。

そこで本論文では、ローの調査を基としてスミスの略歴を紹介したのちに、彼の所有していた音楽に関する蔵書や楽譜の競売目録を精査することにより、彼の音楽的嗜好や彼の所蔵していた音楽作品の傾向を読み解いていく。

キーワード：18世紀イギリス音楽活動、音楽蔵書、古楽、楽譜出版

1 スミスの略歴⁽²⁾

ローの調査によると(Roe 2003: 5-8)、ロバート・スミスは1741年にラルフ Ralph Smithとエリザベス Elizabethの次男として1741年にウィンザーで誕生した。ラルフは肉屋を営み、1737年に結婚した妻のエリザベスはロンドン郊外のベコンズフィールドで肉屋を営んでいたベイツ Robert Batesの娘であった。このエリザベスの兄弟のジョン John Bates (1722-85)はロバートの人生における重要な人物となる。ジョンは14歳のときにロンドンのワイン商の徒弟となっており、1750年にはワイン商同業組合の役員会メンバーに選出された。その後1776年にはその役員会の長にも就任し、ロンドン市の名誉市民にも選ばれた人物であった。ロバートの父ラルフが1748年に亡くなったのち、エリザベスはウィンザーに留まったものの、長男のジョン・スミス John Smithはエリザベスの兄弟のジョンによって引き取られロンドンで育てられた可能性がある。また次男のロバートに関しては、この時期より少し後にセント・ポール大聖堂の聖歌隊員となったとの記載がある⁽³⁾。したがって、ロバートもロンドンに移り、1748年からセント・ポール大聖堂の少年聖歌隊員監督に就任したサヴェジ William Savage (?1720-89)の下で音楽教育を受けてい

たと考えられる。

1755年頃に変声期を迎え、聖歌隊を離れたロバート・スミスはベイツの商店で徒弟生活を始めた。それから10年ほど経過した1765年にスミスは徒弟生活を終えてワイン商組合の会員となり、ベイツと共同で店を運営した。1767年にはベイツの娘、すなわち従姉妹のマルタ Marth Smith, nee Bates (1744-80)と結婚し1780年に彼女が死去するまでに6人の子宝に恵まれた。その後、1783年からスミスは自宅で、グリー・クラブの前身となる会合を開き1787年に正式にグリー・クラブを発足させた。その際に会長に選ばれたのが、1789年末に古楽アカデミーの指揮者に就任するアーノルド Samuel Arnold (1740-1802)である。この時期、スミスは仕事や家庭の雑務——1785年のビジネス・パートナーであった伯父(叔父)ベイツの死去やその妻である義理の伯母(叔母)の遺言執行者として——で多忙を極めたようであるが、そのような中でワイン商組合のレンター・ウォーデン Renter Warden (1787年)やスワン・ウォーデン Swan Warden (1792年)に就任し組合を牽引すべく精力的に仕事をこなしていた。

そのような時期に、スミスは古楽アカデミーの重要な役職をも歴任していた。スミスがいつ、どのような形で

古楽アカデミーと接点を持ち始めたのかは現時点では明らかになっていない。ただし、彼がセント・ポール大聖堂の聖歌隊出身であった点から推測すれば、宗教音楽を中心に、「古楽」と呼ばれる音楽への興味を持つことは決して稀有なことではない。更に、彼が聖歌隊に所属していた時期のセントポール大聖堂少年聖歌隊員監督であるサヴェジが、古楽アカデミーの会員であったため、サヴェジとのつながりの可能性も考えられよう。

現時点において、古楽アカデミーとのつながりでスミスの名前を確認できる最初の資料は、1785-86年シーズンの最終コンサートに向けての嘆願書(List of Subscribers)に記された一予約者としての署名である⁽⁴⁾。本論文の筆者の調査から、その後、スミスは1786-87年シーズンと翌1787-88年シーズンにアカデミーの委員会のメンバーに名を連ね、1788-90年シーズンの間にサブ・ダイレクター(副監督)、更には1788-89年シーズンよりコンサートの演目の選定役の一人となり、1789年末のアーノルドの指揮者就任後は、1790年4月に古楽アカデミーの誇る蔵書の管理を司書としてアーノルドと共に⁽⁵⁾おこなっていたことが判明している(吉江2012: 88-89)。したがって、古楽アカデミーの運営部隊の中心人物の一人であったことは間違いないといえよう。

1790年代半ばになると、ワイン商組合の仕事から離れ、スミスは趣味の音楽の分野の活動に積極的に関わるようになったといわれている。1810年にスミスは69歳で死去するまでグリー・クラブの会計役を務め、優れたグリーを作曲した2名を表彰することを遺言で残している⁽⁶⁾。

2 スミスの競売目録

スミスの蔵書は1813年5月18日と19日の2日にわたり、グレイト・ジョージ・ストリート近くのストーリーズ・ゲイトにあるホワイトMr Whiteの会場で執りおこなわれた競売に出品された。目録には1から276の番号が付けられており、オークション目録(BL: Hirsch IV. 1091)の冒頭には「価値ある音楽蔵書 Valuable Library of Music」と記されている。表紙に掲載された主要な出品物として、アーノルドによる2つのヘンデル全集全180巻(39タイトル)セット、ガースJohn Garth(1721-1810)が英語版に改作した8巻からなるマルチェットBenedetto Giacomo Marcello(1686-1739)の50の詩編集、パーセルHenry Purcell(1659-95)の『オルフェウス・ブリタニクス Orpheus Britannicus』、クロフトWilliam Croft(1678-

1727)やグリーンMaurice Greene(1696-1755)のアンセム、ボイスWilliam Boyce(1711-79)そしてアーノルドによる『大聖堂の音楽 Cathedral Music』、タリスThomas Tallis(c1505-85)やバードWilliam Byrd(c1540-1623)、パレストリーナGiovanni Pierluigi da Palestrina(c1525-94)やフランドル出身のプヴェルナージュAndreas Pevernage(1542/3-91)、スヴェーリンクJan Pieterszoon Sweelinck(1562-1621)といった16世紀から17世紀初頭に活躍した作曲家とともに、カリッシミGiacommo Carissimi(1605-74)、晩年に古楽アカデミーの会長に就任したステッファニーAgostino Steffani(1654-1728)などのモテット、詩編、マドリガーレ作品集、グラウンCarl Heinrich Graun(1703/4-59)のイタリア語オペラ、アーンThomas Augustine Arne(1710-78)の《アルタクセルクセス Artaxerxes》といった英語オペラ作品、キャッチ・クラブの秘書を務め1763年から彼が亡くなるまで出版が続いたウォレン・ホーンThomas Warren-Horne(c1730-94)によるキャッチとグリー集などが提示されていた。

表1は競売目録の割り振りをまとめたもので、初日の5月18日は、英語声楽作品(番号1から28)、教会音楽(番号29-78*)、器楽作品(番号79-83)、書籍(番号84-90)、イタリア語声楽曲およびオペラ(番号91-136)が競りにかけられ、2日目の5月19日は、ミサ曲、モテット、マドリガル(番号137-172)、ヘンデルのオラトリオ作品(番号173-193)、英語声楽作品(番号194-218)、キャッチおよびグリー(番号219-253)、イタリア語オペラ、

表1 スミスの競売目録の割り振り

Dates	Lots	Genres
1813/18/5	1-28	English Vocal, &c
	29-78*	Church Music
	79-83	Instrumental, &c.
	84-90	Books, &c.
	91-136	Italian, &c. Operas
1813/19/5	137-172	Masses, Motetts, Madrigals, &c.
	173-193	Handel's Oratorios, &c.
	194-218	English Vocal Works
	219-253	Catches and Glees, &c.
	254-276	Italian Opera, Songs, &c.

Valuable Library of Music. A Catalogue of the Musical Library of Robt. Smith, Esq. 1813. より作成

歌曲(番号254-276)が出品された。このようにある程度、ジャンル別に分類しているものの、その目録項目の分類と異なる作品も含まれていることが確認されている⁽⁸⁾。そのような問題が生じるのは、複数巻で1組となっている手稿譜や複数の作品が1冊にまとめられている場合には、その1組および1冊に1つの目録番号が割り振られており、異なるジャンルの作品が含まれていても、おそらくその楽譜の最初のタイトルに合わせた項目に組み込んでいるためと考えられる。また、目録には編纂された楽譜のおおまかな情報のみが記載されているため、その楽譜に含まれる全ての作曲者名や作品名が記載されているわけではない。したがって、この目録からスミスの所蔵楽譜の全容を完全に把握することは困難ではあるが、おおよその傾向を読み取ることは可能と思われる。

ここからは各ジャンル項目における一般的な傾向を読み取る。ただし、5点のみが掲載された器楽曲作品⁽⁹⁾と7つの目録番号が与えられている書籍の項目⁽¹⁰⁾については割愛する。なお、表中、タイトルに下線が引かれているものは手稿譜を表している。それではまず、ヘンデル作品の項目から確認していく。

3 ヘンデルのオラトリオ作品⁽¹¹⁾

表2がスミスの競売目録に記載されたヘンデル作品の項目の一覧である。キング(King 1963: 26)を筆頭に、スミス音楽蒐集家として言及する際にまず挙げられることは、これらの貴重なヘンデルの作品の手稿譜を所蔵していた点である。その代表的な楽譜としてヘンデル作品の筆写作業を担っていたスミス(父) John Christopher Smith [Johann Christoph Schmidt] (1683-1763)の手による5曲の《シャンドス・アンセム Chandos Anthems》が収められた『アンセム集』(番号182)、《メサイア Messiah》(番号183)、《ベルシャザル Belshazzar》(番号184)、《デボラ Deborah》(番号185)が挙げられる。スミス(父)以外の手によるものを含めると目録には合計11点の手稿譜が挙げられており(目録番号182-189, 191, 192, 193)、これらのうち目録番号182の《アンセム集》⁽¹²⁾と番号188の《エイシスとガラテア Acis and Galatea》⁽¹³⁾が大英図書館に所蔵されている。なお、データベース検索により、大英図書館にはロバート・スミスと関連するヘンデル作品の手稿譜が合計10点あるとされているが(表3)、この目録と完全に一致した手稿譜は2点のみであった⁽¹⁴⁾。この2点の手稿譜が競売目録と合致していることとともに、スミスの所蔵であると断定で

きる決定的な証拠となったのは、手稿譜に添付されたスミスの名前と紋章をあしらった蔵書票の存在である。この蔵書票は2種類あり、一つは紋章と名前のみ、もう一つは格言が添付された紋章と名前のものである⁽¹⁶⁾。その格言は「態度は穏やかに、ことを成すには決然と SUAVITER IN MODE FORTITER IN RE」と記されており、手稿譜によってはその蔵書票の余白に手書きでスミスの住所が記されているものもあったため、スミスの所蔵楽譜と断定できたのである⁽¹⁷⁾。

この大英図書館のデータベースでロバート・スミスとの関連でカウントされた10点のうち、上記の2点を除いた手稿譜もスミスの所蔵物であったかについては疑問が残る。ローは、過去の研究者がこれらの手稿譜が含まれる大英図書館のロイヤル・ミュージック・ライブラリーに所蔵されている「スミス・コレクション」をこのロバート・スミスと混同したり、このコレクションに頻繁に登場するR.S.と記された筆耕者をこのロバート・スミスと定義したりしていること、更には、手稿譜の筆跡の違いからR.S.とロバート・スミスを同一人物と見做すことにヘンデル研究家のバロウズが疑問を呈していることを紹介している(Roe 2003: 8)。今回は、これら8つの筆写譜を実際に確認することができなかったが、上記の2つはスミス(父)による筆写であるため、R.S.の筆写と異なることは当然である。更に、目録番号184の《ベルシャザル》は目録ではスミス(父)の手によるものとされている一方、大英図書館所蔵の《ベルシャザル》はR.S.の筆写とされており、これらが同一の楽譜とは考えられない⁽¹⁸⁾。もしスミスの蔵書票が添付されていたとしたらスミスの所有物であった可能性も考えられよう⁽¹⁹⁾。

続いて印刷譜について確認していく。目録に挙げられた印刷譜の大部分は、アーノルドが1787年から10年にわたり出版をおこなったヘンデル全集(未完)である。このアーノルド版の印刷譜の完全版(39巻の収録作品については表4)をスミスは2組所有していた。一組は目録番号173のアーノルドによる特別装丁版で、もう一組は通常の装丁楽譜と考えられる。なお、スミスはこの全集出版の冒頭巻であるオラトリオの《アタリア Athalia》の出版から予約をしており、この《アタリア》の予約者リストに名前が記載されている(Coopersmith 1947a: 291)。これらの貴重な手稿譜やアーノルド版の所蔵から、スミスがヘンデル作品へ大いに傾倒していたといえよう。

表2 ヘンデル作品一覧

Lots	Titles
173	Handel's Works a remarkably fine and compleat set, a Subscription copy (selected for Mr Smith, by the Editor, Dr Arnold) handsomely bound in 39 Vols.
174	Handel's Works Another Copy, equally fine and compleat selected by Dr Arnold handsomely bound in 39 vols.
175	Athalia by Dr. Arnold
176	Theodora by Dr. Arnold
177	Messiah by Dr. Arnold
178	Te Deums and Jubilate by Dr. Arnold
179	Te Deums by Dr. Arnold
180	Sosarme, Water and Fire Music by Dr. Arnold
181	Semele by Dr. Arnold
182	<u>Anthems (5) in score MS of Mr Schmidt, a Gift from the King's Library</u>
183	<u>Messiah, in score MS of Mr Schmidt the Harpsichord copy used by Mr Handel</u>
184	<u>Belshazzar in score MS of Mr Schmidt</u>
185	<u>Deborah in score MS of Mr Schmidt</u>
186	<u>Deborah, Another copy in score</u>
187	<u>Messiah a fine score in the Hand writing of Mr Overead</u>
188	<u>Acis e Galatea a fine score some parts in the hand writing of Mr Handel with Notes Vide Sir J Hawkins Vol. 5 page 272</u>
189	<u>Alcides in score MS the copy presented for representation at the Theatre Royal Covent Garden</u>
190	Thirteen Italian Duets, Walsh's edition
190	Anthem As pants the Hart
190	Six Madrigals by Giovanni Carlo Clari (1677-1754)
191	<u>An Oratorio, Esther, with the Hebrew words, in the italic character, in score, MS</u>
192	<u>Songs in the Messiah, in score, MS</u>
193	<u>Short Te Deum and Jubilate, Mr Travers's writing in score, incompleat</u>

Valuable Library of Music. A Catalogue of the Musical Library of Robt. Smith, Esq. 1813. より作成

表3 大英図書館に所蔵されているスミスが所有していたヘンデル作品の手稿譜

Shelfmark	Titles	Years	Copiests
R.M. 18. d. 2	Esther	1767	Robert Smith
R.M. 18. d. 6	Ode for St. Cecilia's Day / The Choice of Hercules	1767	Robert Smith
R.M. 18. d. 8	Misellaneous collections and selections	c1770	Various handwritings
R.M. 18. e. 4	Semele	1769	Robert Smith
R.M. 18. e. 5	Belshazzar	1767	Robert Smith
R.M. 18. e. 8	Joseph	1767	Robert Smith
R.M. 18. f. 1	Judas Maccabeus	1766	Robert Smith
R.M. 18. f. 2	Alexander Balus	1769	Robert Smith
R.M. 19. g. 1b	Anthems (182)	1772-73	John Christopher Smith
Egerton MS 2953	Acige e Galatea (188)	?	John Christopher Smith / George Frideric Handel

British Library Archives and Manuscript Catalogue より作成

表4 アーノルド版全集一覧

Vols.	Titles	Vols.	Titles
1	Athalia	21	Israel in Egypt
2	Theodora	22	Occasional Oratorio
3	Messiah	23	Alcides, Concertante, & Ode Cecilia's Day
4	Te Deums and Jubilate Utrecht, and Chandos	24	Joseph
5	Belshazzar	25	Saul
6	Sosarme, Water and Fire Music	26	Jephtha
7	Semele	27	Concertos, 12 Organ, 1st and 2d set
8	Tesco	28	Lessons, Harpsichord, 1st, 2d, and 3d sets and Fugues
9	Hercules	29	Susanna
10	Acis and Galatea, and Judas Maccabeus	30	Esther
11	Giulio Cesare	31	Deborah
12	Sonatas, 13	32	Agrippina, and facsimile of Handel's writing
13	Samson, and Birth Day Ode	33	L'Allegro, &c 12 Sonatas, or Flute Solo
14	Joshua, and the Alchymist	34	Anthems - Wedding, Funeral, Dettingen, and 2 Coronations
15	Concertos, 12 Grand	35	Alexander Balus
16	Alexander's Feast, and the Choice of Hercules	36	Triumph of Time and Truth
17	Belshazzar	37	La Resurrezione and a Masque
18	Anthems, 6	38	Hautboy Concertos, 2 Trios, 4 Cantatas and 1 Coronation Anthem
19	Anthems, 6	39	13 Chamber Duets, 12 Cantatas, and 3 Organ Concertos
20	Solomon		

Valuable Library of Music. A Catalogue of the Musical Library of Robt. Smith, Esq. 1813. より作成

4 英語声楽作品

競売の初日と2日目に分けられた英語声楽作品の一覧が表5である。この項目の主要な作品となるのは英語による劇作品であろう。17世紀の作曲家ではパーセルやロック Matthew Locke (1621/23-77) の劇付随音楽、18世紀の作曲家ではアーンやボイスの劇音楽が目につく。ただし、それら以上に数多く目にするものは、劇作品とは異なりタイトルが付記されておらず単にエアやソングという記述となっている歌曲で、ここには劇挿入歌も含めた多岐にわたる作品が含まれていたと考えられよう。そして、本来であればこの項目ではなく、別の分類に含まれるべき作品である無伴奏の合唱曲のグリーなども数多く目録に掲載されている。グリー作品は英語声楽作品とは別項目で枠が与えられているにもかかわらずこの英語声楽作品の項目に含まれている理由に、歌曲などと一緒に楽譜に収められていることが挙げられる。実際に、

グリーの名が含まれる作品は、目録番号1や2であり、そこには歌曲、カンタータ、エレジー（哀歌）やマドリガルといった様々な声楽作品が含まれた選集の中の一ジャンルとして置かれているからである。ただし、歌曲や重唱が主となるこの項目にホモフォニックな無伴奏の合唱曲であるパートソングも目録番号10のように含まれていることは興味深い。恐らく原則としては独唱や重唱といった声楽曲を軸に英語声楽作品の項目を立てているものの、様々な種類の声楽曲が一同に含まれた選集などは、こちらに含めたといった程度の認識なのかもしれない。

次にこの項目で取り上げられた作曲家などにおける傾向の有無を確認していく。作曲家の世代に注目していくことが確認できる。したがって、16世紀末から17世紀前半にかけてのリュート歌曲やマドリガルはこの項目には含まれていない。更に、この項目ではロックの《マ

表5 英語声乐作品一覽

Composers		Titles
Abel, Carl Friedrich	1723-87	English Songs, [published for Harrison] (16).
Abell, John	1653-after1716	Songs in several Languages 1701 (201)
Arne, Thomas Augustine	1710-78	Artaxerxes, in score (203), another copy (204), <u>another copy in sheets 2 pages, MS</u> (205), Blind Beggar (210), Comus, neatly bound (203), <u>Comus, in score, MS</u> (213), Eliza, in score (208), Songs in the Jovial Crew (208), Judgement of Paris (206), another copy (207), Merchant of Venice (210), Thomas and Sally, published for Harrison (3), Thomas and Sally (211), the Agreeable Musical Choice, 2 books (212), Cantatas, Songs, <u>Music in the Tempest, in score, MS and some in his own hand writing</u> (214), Songs (203), <u>Songs in score, MS great part his own hand writing</u> (215), Lyric Harmony, Op. 4 (209), part of Lyric Harmony (212)
Arnold, Samuel	1740-1802	Polly, an Opera, published for Harrison (3)
Bach, Johann Christian	1735-82	Songs (208)
Baildon, Joseph	c1727-74	Songs (208)
Blow, John	1649-1708	Amphion Anglicus with a fine portrait 1700 (195), another copy 1700 (196), Part Songs (10), (13), Songs (15)
Bononcini, Giovanni	1670-1747	Songs in Astynax (199)
Boyce, William	1711-79	Chaplet, published for Harrison (3), Chaplet (11), (12), Lyra Britannica (3), Shepherd Lottery (12)
Brooks, Taylor?	1685-1731	Songs and Cantatas, Glees (1)
Callcott, John Wall	1766-1821	Songs (204)
Carey, Henry	1687-1743	Part Songs (10), The Musical Century, the 100 songs, compleat, 2 additional Songs, a Cantata and an Interlude, Nancy, or the Parting Lover; a fine copy, with portrait by Faber (198)
Clarke, Jeremiah	c1674-1707	Songs (15)
Clayton, Thomas	1673-1725	Songs in Arisinoe (201)
Corfe, James?	1713-?	Part Songs (10)
Danby, John	c1757-1798	Songs and Cantatas, Glees (1)
De Fesch, Willem	1687-1761	Scotch Songs and Songs (210)
Dignum, Charles	c1765-1827	Songs (204)
Dupuis, Thomas Sanders	1733-96	Songs and Cantatas, Glees (1)
Eccles, John?	c1668-1735	Part Songs (10), Songs (15)
Festing, Michael Christian	1705-52	Scotch Songs and Songs (210)
Galliard, John Ernest	1666/87-1747	Morning Hymn, published for Walsh (22), Songs in the Rape of Proserpine, original edition (199)
Gamble, John	1610-87	Ayres and Dialogues 1657 (197)
Gasparini, Francesco	1661-1727	Songs in the Opera of Antiochus, published for Walsh [in 1711] (25)
Grabe, Luis	fl. 1665-94	Opera of Albion and Albanus in score 1687 (200)
Greene, Maurice	1696-1755	Part Songs (10), Cantatas and Songs (208)
Handel, George Frideric	1685-1759	Part Songs (10), (13), Apollo's Feast or celebrated Songs from Handel's Italian Opera, published for Walsh (27), Apollo's Feast published for Walsh (a second collection) (28), Collection of Part Songs, Opera of Alexander published for Cluer (26), Songs in Rodelinda (199)

Hayes, William	1708-77	Music in Circe (21), Trios and Songs (21), an Ode (21)
King, William	c1624-80	Poems of Cowley and others composed into Songs and Ayres (197)
Lampe, John Frederick?	1702/3-1751	Part Songs (10)
Langdon, Richard	c1729-1803	Songs and Cantatas, Glees (1)
Lawes, Henry	1596-1662	Ayes and Dialogue, [published for Walsh] (19)
Leveridge, Richard	1670-1758	Part Songs (10)
Linley, Thomas	1733-95	Posthumous Works, Songs, Duets, Cantatas, Madrigals and Glees (218)
Locke, Matthew	1621/23-77	<u>Music in Macbeth, in score, MS</u> (216)
Matteis Nicola	?-after1713	Songs (201)
Pepusch, Johann Christoph	1667-1752	The Masque of Venus and Adonis, (199)
Piccini, Niccolò	1728-1800	<u>The Accomplish'd Maid, an Opera, in score MS</u> (6), The Accomplish'd Maid Songs (7)
Purcell, Daniel	c1664-1717	Part Songs (10)
Purcell, Henry	1659-95	Orpheus Britannicus, with fine portrait, 2 vols 1698 and 1702 (194), Music of the Prophetess 1691 (201), <u>Music in Macbeth, in Purcell's hand writing, with the part performed by Leveridge and a copy of the Score, also some curious Notes</u> (217)
Rogers, Benjamin?	1614-98	Songs and Cantatas, Glees (1)
Saggione, Giuseppe	fl. 1680-1733	Songs in the Temple of Love, published for Walsh (201)
Smith, John Stafford	1750-1836	Songs and Cantatas, Glees (1)
Stanley, John	1712-86	Cantatas (14)
Travers, John	c1703-58	Canzonets (13)
Webbe, Samuel	1740-1816	Songs and Cantatas, Glees (1), Songs (204)
Weldon, John	1676-1736	3d Book of Songs (201)
/		Songs and Cantatas, Glees (1), Part Songs (10), (13) <u>Part Songs, Odes, Dialogues, MS</u> (23), Collection of Songs 1704, 3 number Songs (17),
/		Festive Harmony, published for John Page in 1804 (2)
/		Mercurius Musicus, 1700, compleat (15), incompleat (16)
/		The Monthley Masks (17), The Manthly Mask 1703 and 9 collections (201)
/		Choice Songs (1st Book) published for Playford in 1673 (18), 1673 and 1679 (197)
/		a scare Poem, The Session of Musicians 1724 curious (197)
/		Thomson's Scotch Songs (209)
/		Midas, an Opera (4), Tom Jones, an Opera (5), The Royal Shepherd, an Opera (5), <u>Love in a Village, in score MS</u> (8), <u>Maid of the Mill, in score MS</u> (9), Camilla, published for Walsh (20), Aminoe, published for Walsh (20), The Temple of Love, published for Walsh (20), Thomyris, published for Walsh (20), <u>Erimante an Old English Opera, MS</u> (24), Songs in the Opera of Camilla, Walsh (202)

Valuable Library of Music. A Catalogue of the Musical Library of Robt. Smith, Esq. 1813. より作成

クベス Macbeth⁽²¹⁾ などごく一部を除き、手稿譜ではなく印刷譜が目録の大部分を形成していることも確認できる。17, 18 世紀の英語の歌曲が中心ということであれば、それほど高い音楽的技量を必要とせずに演奏できる作品

が多いといえよう。これらの主な歌曲は音楽愛好家を対象として数多く出版されていたため、それらの出版譜を入手すれば、あえて手書きで残す必要がなかったと考えられよう。

5 教会音楽

表6で示した教会音楽の分野においては一部にラテン語の宗教音楽が含まれているものの、この分野に含められているものは大部分がイギリス国教会のためのサーヴィス、アンセム、詩編歌となっている。なぜなら競売の2日目にミサを中心とする項目が置かれており、主に英語による宗教音楽以外はそちらで一括されているためである。例外的にこの教会音楽の項目に含められたラテン語作品は、パレストリーナのモテットである。彼の作品は基本的に前述した2日目のミサの項目に含められている。ここで目録番号78*にラテン語のモテットが含まれているのは、同じ目録番号の5声のアンセムとともに一冊の楽譜として合本されていたからと考えられよう。⁽²²⁾しかし、なぜパレストリーナのアンセムが存在するのかが疑問として浮かび上がる。アンセムとはイギリス国教会の礼拝において任意に歌われるものであり、国教会独自の宗教音楽である。彼はイタリアの作曲家でありオリジナル作品として英語のアンセムを作曲したとは考え難い。これは、競売目録の表紙に挙げられたものとして既に紹介した目録番号68のマルチェッロの詩編歌集のように、カトリック用に作曲された作品に英語の歌詞を充ててアンセムとしたものと考えられる。このようなパレストリーナの楽曲が使われた18世紀までのアンセムの出版物を確認することはできなかつたが、⁽²³⁾イタリア人作曲家の作品にイギリス国教会用に改作した筆耕者不明の18世紀から19世紀の手稿譜が大英図書館に所蔵されているため、⁽²⁴⁾スミスの目録に掲載されている作品もそのような改作と考えて間違いなからう。

ではこの宗教音楽分野の特徴を確認していく。第一に挙げられるのは、16世紀や17世紀初頭の作曲家の名前が数多く確認されているだけでなく、18世紀の作曲家のアンセムも多数確認されている点である。イギリス国教会の音楽の歴史は16世紀から始まるが、その時代のタリスやバードといった当時の巨匠といえる作曲家のアンセムやサーヴィスが目録に連ねられている。17世紀には王政復古後に共和政時代に途絶えたチャペル・ロイヤルの復活にともない、旧来の宗教音楽が復興されるとともにアンセムの新しい時代の幕開けとなり、ブロー John Blow (1649-1708) やパーセルらによるオーケストラつきの大規模なアンセムも生み出された。18世紀にもグリーン Maurice Greene (1695-1755) やボイス William Boyce (1711-79) らがアンセムを残している。この目録には、作品の規模はわからないものの彼らのよ

うなアンセムやサーヴィスの主要作曲家の名が網羅されているが、特に16, 17世紀の作品は手稿譜によるものが多く、目録番号29から78*まで合計51点うち手稿譜と考えられるものが目録番号で少なくとも22点数えられることも特徴の一つとして挙げられよう。それらのうちの幾つかは、スミスの手に渡る以前に他の音楽愛好家や音楽家が所有していたことが記載されており、彼がうちに購入するなどして自身のコレクションに加えたと考えられる。これらの手稿譜の目録には、英語声楽作品の選集と同様に主要な作曲家の名前のみが記載されているに留まり、全体像を把握することは困難である。ただし、これらの手稿譜の中で現存するものがあり、ここでは1つの手稿譜を紹介する。

目録番号32のアンセム集は「Anthems, (30) by Henry 8th — Gibbons — Tallis — Byrd — Tye [—] Bull — Child — Blow — Weldon — Blake — Goldwin — Aldrich — Boyce, &c. in score, MS. R. Guise, rough calf.」と記載されている。これらのアンセムは総譜で書かれた16世紀から18世紀にかけての著名な作曲家によるもので、30の数字はこの手稿譜に収められた作品総数を表している。そして、タイトルの最後の部分にR. Guiseと記されているが、これはスミスが入手する前の所有者であり、この手稿譜を編纂したと考えられる人物のギース Richard Guiseである。彼に関する詳細は不明であるが、彼の手によって作成されたと考えられる別の手稿譜に競売目録番号33が与えられている。この目録番号32の手稿譜は現在、大英図書館に所蔵されており、Add M.S. 39572の番号が与えられている。その手稿譜情報をまとめたものが表7である。この手稿譜の目次には1768年11月12日の日付が記されており、この日に編纂されたと考えられ19名の作曲家の作品が収録されている。その19名の作曲家の多くはスミスのコレクションに含まれる他の楽譜にも作品——それらの作品が同一のものか否かの確認まではおこなえないもの——が収められている。

続いてこの項目の主要な出版譜を確認する。主な出版譜は、プレイフォード John Playford (1623-87), Henry Playford (1657-1709) などによる17世紀末を中心に出版された詩編歌や讃美歌などの選集、各作曲家が手掛けた詩編歌集、ボイス (1760-73年出版) やアーノルド (1790年出版) が編纂した『大聖堂の音楽』、他にはボイスの宗教カンタータの《ソロモン Solomon》や彼の死後に出版されたアンセムなど18世紀を中心とした作曲家の作品となっている。ただし、アンセムやサーヴィスは前述のようにイギリス国教会の礼拝用の作品であり、テンパ

表6 教会音楽作品一覧

Composers		Titles
Alcock, John?	1715–1806	<u>Services MS [compiled? by] R [Richard] Guise (33)</u>
Aldrich, Henry	1648–1710	<u>Anthems MS [compiled? by] R [Richard] Guise [in 1768] (32), Anthems (67)</u>
Attwood, Thomas	1765–1838	The burial Service for Lord Nelson and Dirge (78)
Ayrton, Edmund	1734–1808	Anthem (67)
Barrow, Thomas?	?1722–89	<u>Anthems and a Te Deum (35)</u>
Bassani, Giovanni Battista?	c1650–1716	<u>Anthems MS (38)</u>
Battishill, Jonathan	1738–1801	<u>Anthems MS (40)</u>
Blake, Edward	1708–65	<u>Anthems MS by Guise (32), Anthems (67)</u>
Blow, John	1648/9–1708	<u>Anthems MS purchased from Hayes's Collection by Dr. Arnold (29), Anthems MS by R. Guise (32), Anthems MS (38)</u>
Boyce, William	1711–79	<u>Anthems MS by R. Guise (32), Fifteen Anthems, Te Deum and Jubilate, 1780 (60), Anthem Lord thou hast been our Refuge (61), Anthem Blessed is he (61), Duet Here shall soft Charity (61), Solomon, in Score, (62), Ode, Installation, Cambridge 1749, and Anthem (63), Ode and Anthem (64)</u>
Bull, John	1562/3–1628	<u>Anthems MS by R. Guise (32)</u>
Buswell, John?	1733–63	<u>Anthems MS (39)</u>
Byrd, William	c1540–1623	<u>Anthems MS by R. Guise (32)</u>
Callcott, John Wall	1766–1821	Music for the Asylum (47)
Child, William	1606/7–97	<u>Anthems MS by R. Guise (32), Services MS by R. Guise (33)</u>
Clarke, Jeremiah	c1674–1707	<u>Anthems MS (37), Anthems MS (40)</u>
Cooke, Benjamin	1734–93	Colins's Ode (67)
Croft, William	1678–1727	<u>Anthems MS (38), Burial Service the Alto part (46), Anthems (69), Anthems (70), Cathedral Music, French's Edition (71), Anthems MS in score (76)</u>
Gibbons, Orlando	1583–1625	<u>Anthems MS from Hayes's Collection (29), Anthems MS by R. Guise (32)</u>
Goldwin, John	1667–1719	<u>Anthems MS by R. Guise (32), Services MS by R. Guise (33), Anthems MS (40)</u>
Goodson, Richard?	c1655–1718	<u>Services MS by R. Guise (33)</u>
Greene, Maurice	1696–1755	<u>Funeral Anthem in score MS (46), Anthems (72), Te Deum, in Score, his own MS composed for his Doctor's Degree at Cambridge, 1745, with Vocal and Instrument Parts (74)</u>
Handel, George Frideric	1685–1759	Funeral Anthem (67)
Hayes, William	1708–77	Cathedral Music (66), Sixteen Psalms, in Score [1773] (77)
Henry 8th	1491–1547	<u>Anthems MS by R. Guise (32)</u>
Hine, William	1687–1730	<u>Anthems MS (40)</u>
Holmes, George	c1680–1720	<u>Anthems MS (38)</u>
Humfrey, Pelham	1647/8–74	<u>Anthems MS from Hayes's (29), Anthems MS (40), Anthems MS in score (76)</u>
Kent, James	1700–76	<u>Anthems MS (37), Anthems and Services (73)</u>
King, Charles?	1687–1748	<u>Three Services, MS [compiled? by] Mr. Thomas Barrow (30), Three Services & Six Anthem MS (31), Anthems MS by R. Guise (32), Services MS R. Guise (33), Services and various Anthems (76)</u>

Locke, Matthew	1621/3-77	<u>Anthems MS from Hayes's</u> (29)
Marcello, Benedetto Giacomo	1686-1739	Psalms, adapted to the English Version, by Garth, a fine copy, neatly bound 8 vols. (68)
Marsh, John?	1752-1828	<u>Anthems and a Sanctus, MS</u> (64)
Pepusch, Johann Christoph	1667-1752	Services and various Anthems (76)
Prenestini [Palestrina] , Giovanni Pierluigi da	1525/26-94	<u>Anthem, 5 Voc. and Latin Motetts, in Parts</u> (78 *)
Pring, Jacob Cubitt?	1770-99	Anthems (47)
Purcell, Henry	1659-95	<u>Anthems MS</u> (37), <u>Anthems MS</u> (40), Anthems, Walsh's Edition (54), Anthems (67), Te Deum and Jubilate 1697 (52)
Roner, Andrew?	fl1710-21	Melopeia Sacra, Psalm [1721] (53)
Stradella, Alessandro	1639-82	a <u>Serenata</u> (78 *)
Tallis, Thomas	c1505-85	<u>Anthems MS by R. Guise</u> (32)
Tattersall, William Dechair	1751-1829	<u>Psalm Tunes from Mr. Tattersall's publication, Sanctus's Anthem Organ Part MS</u> (42)
Travers, John	c1703-58	Services, Chants, and Twelve Anthems Mr. Thos. Barrow the Author's Signiture (34), <u>Anthems, Psalms, Songs, and Canzonetts, an Ode, Songs, &c. his own MS</u> (36), <u>Ode for Princess Augusta's Birth Day, 1743, in Scire, his own hand writing</u> (75), <u>Anthems MS in score</u> (76)
Tye, Christopher	c1505-73	<u>Anthems MS by R. Guise</u> (32)
Webbe, Samuel	1740-1816	Anthems (47), 8 Anthems (67)
Weldon, John	1676-1736	<u>Anthems MS by R. Guise</u> (32)
Wise, Michael?	c1647-87	<u>Anthems MS</u> (37), <u>Anthems MS</u> (40), <u>Anthems MS in score</u> (76)
/		Collection of Psalms and Hymns (37), Book of Chants (46), <u>Madrigals and French Songs</u> (78 *)
/		<u>Morning Service The Alto part in score MS</u> (42), Morning Service in score (43), <u>Morning Service Alto part in score MS</u> (44), <u>Evening Service Alto part in score MS</u> (45)
/		Divine Harmony, Anthems in score 1774, revised by [Richard] Langdon (49), Collection of English Songs, 1500 edited by John Stafford Smith (67), Selection of Sacred Music, published by Corse (65), Selection of Sacred Music from the Works of the most eminent Compersers of Germany and Italy [compiled] by Christian Ignatius Latrobe; 24 numbers compleat Subscription Copy (55)
/		Playford's Harmonia Sacra, 1688 and 1693 (50), 1703 and 1693 (51), 1688 and 1693 (52)
/		Playford's Psalms and Hymns in solemn Music — part Title wanting (56)
/		Boyce's Cathedral Music, original edition, 1760 (57), Boyce's Cathedral Music, Ashley's edition, 1788 (58), Arnold's Cathedral Music, 1790 (59), Cathedral Music in score, published for John Page (48)
/		the Burial Service for Lord Nelson (77)

Valuable Library of Music. A Catalogue of the Musical Library of Robt. Smith, Esq. 1813. より作成

リー (Temperley1990: 363) が言及しているように聖歌隊は筆写譜を用いて歌っていた。したがって、このジャンルの楽譜は出版市場を潤すほどの需要が見込まれないため出版譜は少なく、例外的といえる出版譜が確認されているボイス⁽²⁶⁾以外に目録番号32に収められた主に18世

紀に活躍した作曲家——ブレイク William Blake (1708-65), チャーチ John Church (1674-1741), キング Charles King (1687-1748), ウェルドン John Weldon (1676-1736) ——の生前の出版譜は1716年に出版されたウェルドンの《神聖なる調和 Divine Harmony》——

表7 ギース編纂の手稿譜作品一覧 (BL Add MS 39572)

Composers		Titles	Pages
Aldwich, Henry	1648-1710	God is our hope	240
Blake, Edward	1708-65	I have set God	228
Blow, John	1649-1708	Save me O God / God is our hope	160 / 247
Boyce, William	1711-79	By the Waters of Babylon	217
Bull, John	1562/3-1628	Almighty God	109
Byrd, William	c1540-1623	O Lord turn thy / Bow thine ear / O Lord make thy servant / Thou God that guidst / Christ rising	59 / 67 / 75 / 81 / 87
Child, William	1606/7-1697	Sing we merrily / The Earth is the Lords	133 / 153
Church, John	1674-1741	Righteous art thou	212
Clarke, Jeremiah	c1674-1707	O Lord God of my	205
Gibbons, Orlando	1583-1625	Sing unto the Lord / Behold thou hast / Hosanna	9 / 20 / 122
Goldwin, John	1667-1719	I have set God / O Lord God of hosts	260 / 266
Henry the Eighth	1491-1547	O Lord the makers	1
King, Charles	1687-1748	Rejoyce in the Lord	201
Mundy, William	c1528-c91	O Lord the Worlds Saviour	4
Parsons, Robert	c1530/5-72	Deliver me from	165
Stroud, Charles	c1705-26	Hear my prayer	190
Tallis, Thomas	c1505-85	I call & cry	51
Tye, Christopher	c1505-73	I will exalt thee	97
Weldon, John	1676-1736	Hear my crying / In thee O Lord	171 / 184

British Library Archives and Manuscript Catalogue, Collection of anthems, in score, begun by R. Guise. より作成

競売目録49とは異なるもので、スミスの目録には含まれていない——以外、確認することはできなかった。⁽²⁷⁾例えば、チャーチの詩編歌や讃美歌は出版されたが、17作品が現存するアンセムの出版譜は見られない。また、18世紀の主要なアンセムの作曲家の一人であるトラヴァース John Travers (c1703-58) も生前に出版された宗教声楽作品は詩編歌集のみであり、本格的なアンセムの出版譜は前述の『大聖堂の音楽』の登場を待たなければならず、この大事業を皮切りに18世紀後半以降に他の作曲家によるこのジャンルの作品の出版譜が散見されるようになる。このような出版状況は、18世紀前半のより著名な作曲家であるクロフト⁽²⁸⁾やグリーンにおいても大差はなく、競売目録に手稿譜を意味するMSが付記されていない楽譜の中の幾つかは、作曲家の生前のものではなく18世紀後半以降の出版譜であったり、更には実際には出版譜ではなく手稿譜であったりする可能性があ

る。

その一方で詩編歌や讃美歌はキリスト教諸派によるものだけでなく、18世紀にはイギリス国教会の教区教会における聖歌隊歌唱のためのものも含め多数が出版され、上記のアンセムやサーヴィスなどを手掛けていた作曲家による作品もそれらの出版譜に含まれていた。そしてワッツ Isaac Watts (1674-1746) による創作讃美歌、更にはメソヂスト派の指導者ウェスレー John Wesley (1703-91) による讃美歌集の登場と続き、このジャンルは隆盛を極めていった。したがって、この時期には宗教声楽作品で出版需要を見込めるものは讃美歌や詩編歌でありアンセムやサーヴィスではなかったため、アンセムやサーヴィスの作品を蒐集するには筆写譜に頼らざるを得ない状況だったと想像できよう。ただ、目録に掲載された作曲家の一覧からは、スミスのイギリス教会音楽における所蔵楽譜には主要な音楽が網羅されていたと考え

られる。

6 ミサ曲, モテット, マドリガル

続いては2日目のミサ曲等の項目である(表8)。この分野には、ミサ曲やモテットといった明らかに宗教音楽といえる作品と宗教的内容によるものもあるが、世俗作品の印象が強いマドリガーレ(英語ではマドリガル)が含まれている点が興味深い。マドリガーレには反宗教改革の時代にイタリア語の宗教詩による音楽一般を示したマドリガーレ・スピリトゥアーレといったものが存在し、パレストリーナは世俗的歌詞のものだけでなく、多くの宗教的内容のマドリガーレを残している。しかし、この目録ではパレストリーナの作品が宗教的なものなのか世俗的な作品なのかは判然としない。この項目には番号167に挙げられた、主に宗教音楽を手掛けたイタリアの作曲家フोजャ Francesco Foggia (1604-88)によるラテン語のマドリガーレなども含まれており、宗教的内容のマドリガーレもあるため、目録作成者はこの項目にマドリガルを一括して置いたのかもしれない。ただ、目録番号168など恐らく大学式典用のアクト・ミュージックと思われるブローヤロックなどイギリス人作曲家らが手掛けたラテン語によるアクト・ソング⁽²⁹⁾も含まれていることから、ラテン語作品を基本的にこの項目にまとめたとも考えられよう。すなわち、このミサ曲, モテット, マドリガルの項目は今まで以上に雑多なジャンルを包括して

いるといえるのである。

宗教作品の軸は国教会以前のイギリスの宗教作品やカトリックを中心とするその他のキリスト教の宗派のための作品となっている。目録番号144のパーセルやクラークらのアンセムなどイギリス国教会のための作品やモンドンヴィル Jean-Joseph Cassanea de Mondonville (1711-72)のオペラ作品など本来、この項目に含まれるべきではない作品も目録に掲載されているが、これは前項の教会音楽で言及したように、カトリックのための作品と一緒に合本されたため、こちらの分類に含まれていると考えられる。また、目録番号157のよう世俗作品であるグリーがこの項目に含まれているのは、アンセムと同じようにこの項目の主要なジャンルであるマドリガルと合本されていることが理由と考えられる。

この項目で全体的に述べられることは、16, 17世紀の作曲家の作品がイギリスの教会音楽の項目以上に確認できる点であろう。ミサ曲に関してはフェーオ Francesco Feo (1691-1761)など18世紀の作曲家の作品も見られるものの、パレストリーナやヴィクトリア Tomas Luis de Victoria (1548-1611)といった後期ルネサンスを代表する作曲家の作品も含まれており、16世紀から17世紀初頭に活躍した作曲家の作品の蘇生を目的とした結成当初の古楽アカデミーの理念に合致するような時代の作品が目録に並んでいる。またその中にはカトリックだけでなく、目録番号161や162のフランスのユグノー派貴族の庇護を受けて300曲を超える詩編歌を

表8 ミサ曲, モテット, マドリガル一覧

Composers		Titles
Alfonso	?	<u>A Collection of antient Glees, Songs, Motetts, Madrigals, Fancies, &c. in score MS</u> (164)
Anerio, Felice	c1560-1614	[1st book of] <u>Madrigals 1587</u> (152)
Ap Rice	?	<u>A Collection of antient Glees, Songs, Motetts, Madrigals, Fancies, &c. in score MS</u> (164)
Avery, Burton	c1470-c1543	<u>A Collection of antient Glees, Songs, Motetts, Madrigals, Fancies, &c. in score MS</u> (164)
Barnesino	?	3 Motetts (144)
Bassani, Giovanni Battista	c1650-1716	<u>A Collection of Motetts MS, in score, from Dr Hayes's Library</u> (141), Motetts - Op. 8 and 6 Motetts Op. 13 (149), <u>Motetts for single Voice MS</u> (151)
Bellasio, Paolo	1554-1594	[1st book of] <u>Madrigals 1590 in single parts</u> (152)
Bennet, John?	b. ?1575/80, fl1599-1614	Motetts and Madrigals (165), <u>Madrigals</u> (166)
Beran	?	<u>A Collection of antient Glees, Songs, Motetts, Madrigals, Fancies, &c. in score MS</u> (164)
Blow, John	1649-1708	<u>Motetts and Anthems in score MS</u> (142), <u>Act Songs, Latin in score MS</u> (168)
Brewer, Thomas	1611-c1660	<u>Fancies for 4 Voc MS</u> (156), <u>Madrigals, Glees &c MS Mr Gostling</u> (157)

Byrd, William	c1540-1623	Cantiones sacrae 1575 (153), <u>Cantiones sacrae in MS in parts - the hand writing of Mr Battihill</u> (154), <u>Cantiones Sacrae 1589</u> (152), <u>A Collection of antient Gleees, Songs, Motetts, Madrigals, Fancies, &c. in score MS</u> (164)
Caesar, Giovanni Martino	c1590-1667	<u>Madrigals, Gleees &c in 4 parts composed previous to 1674 MS</u> (157)
Caracciolo, Paolo	b.c1560, fl1679-90	Madrigals [a 5 voci] 1582 (152)
Carecana	?	Magnificat, Masses &c 8 Voc in score 1667 &c (140)
Carissimi, Giacomo	1605-74	<u>A Collection of Motetts MS, in score, from Dr Hayes's Library</u> (141), <u>Madrigals</u> (166), <u>Act Songs, Latin in score MS</u> (168)
Carlton, Richard?	c1558-?1638	<u>A Collection of antient Gleees, Songs, Motetts, Madrigals, Fancies, &c. in score MS</u> (164)
Castro, Jean de?	c1540/45-c1600	<u>Latin Madrigals and Songs</u> (167)
Clarke, Jeremiah	c1674-1707	<u>4 Solo Anthems MS</u> (144)
Colman, Charles?	d1664	<u>Madrigals, Gleees &s composed previous to 1674 MS Mr Gostling</u> (157)
Corson	?	<u>A Collection of antient Gleees, Songs, Motetts, Madrigals, Fancies, &c. in score MS</u> (164)
Dering, Richard	c1580-1630	<u>Madrigals, Gleees &s composed previous to 1674 MS Mr Gostling</u> (157)
Dracone	?	<u>Te Deum - in score MS</u> (143)
Eccles, John	c1668-1735	original Music in the Fair Penitent (165)
Feo, Francesco	1691-1761	<u>Missa, Kyrie eleison 5 Voc. - con Stromento - in Score MS</u> (137)
Ferretti, Giovanni?	c1540-1609	<u>Madrigals</u> (166)
Foggia, Francesco	1604-88	<u>Latin Madrigals and Songs</u> (167)
Gibbons, Orlando	1583-1625	<u>Motetts and Anthems in score MS</u> (142), <u>A Collection of antient Gleees, Songs, Motetts, Madrigals, Fancies, &c. in score MS</u> (164)
Good	?	<u>A Collection of antient Gleees, Songs, Motetts, Madrigals, Fancies, &c. in score MS</u> (164)
Goodgroome, John	c1620-1704	<u>Madrigals, Gleees &s composed previous to 1674 MS Mr Gostling</u> (157)
Goodson Richard	c1655-1718	<u>A Collection of antient Gleees, Songs, Motetts, Madrigals, Fancies, &c. in score MS</u> (164), <u>Act Songs, Latin in score MS</u> (168), <u>Act Songs Ode and Pieces, Latin and English, as performed at Theatre Royal MS in Score</u> (172)
Gossart	18th c	<u>Messe a grand Choeur - 5 Voc - MS in score 1729</u> (148)
Gouy, Jacques de	d. after1650.	50 Pseaumes a quite parties from Dr. Brewer's Collection 4 vol (158)
Gratiani, Bonifatio?	1604/05-1664	<u>A Collection of Motetts MS, in score, from Dr Hayes's Library</u> (141), <u>Motetts and Anthems in score MS</u> (142)
Greene, Maurice	1696-1755	<u>4 Solo Anthems MS</u> (144)
Harrington	?	Motetts and Madrigals (165)
Hasse, Johann Adolf	1699-1783	Salve Regina (144)
Jenkins, John	1592-1678	<u>Madrigals, Gleees &s composed previous to 1674 MS Mr Gostling</u> (157), <u>MS (from the Rev Mr Gostling's Curious Collection)</u> (156)
le Jeune, Claude	1528/30-1600	Pseaumes for 4 and 5 Voc from Dr. Brewer's Collection 1627 (161), Pseaumes another edition for 4 and 5 Voc from Dr. Brewer's Collection 1650 (162)
King, William	c1624-80	<u>Act Songs, Latin in score MS</u> (168)
Kyrton	fl1545	<u>A Collection of antient Gleees, Songs, Motetts, Madrigals, Fancies, &c. in score MS</u> (164)
Lasso, Orlando di	1530/32-94	<u>Latin Madrigals and Songs</u> (167)

Lawes, Henry	1596-1662	<u>Madrigals, Gleees &s composed previous to 1674 MS Mr Gostling (157)</u>
Lawes, William	1602-45	<u>Fancies for 4 Voc MS (from the Rev Mr Gostling's Curious Collection) (156), Madrigals, Gleees &s composed previous to 1674 MS Mr Gostling (157)</u>
Lidarti, Christian Joseph	1730-93	Missa, De profundis, in score and Miserere, &c in score (139)
Locke, Matthew	1621/23-77	<u>Motetts and Anthems in score MS (142), Madrigals, Gleees &c (108), in 4 parts composed previous to 1674 MS (157), Act Songs, Latin in score MS (168)</u>
Lully, Jean-Baptiste	1632-87	<u>Fancy for 4 Voc MS (from the Rev Mr Gostling's Curious Collection) (156)</u>
Marenzio, Luca	1553/54-99	<u>Madrigals (166)</u>
Merula, Tarquinio	1594/95-1665	<u>A Collection of Motetts MS, in score, from Dr Hayes's Library (141), Latin Madrigals and Songs (167)</u>
Mondonville, Jean-Joseph Cassanea de	1711-72	<u>Scenes in Operas in score MS (165)</u>
Monteverdi, Claudio	1567-1643	<u>Latin Madrigals and Songs (167)</u>
Morley, Thomas	1557/58-1602	<u>Madrigals, Gleees &s composed previous to 1674 MS Mr Gostling (157), A Collection of antient Gleees, Songs, Motetts, Madrigals, Fancies, &c. in score MS (164), Twelve Canzonets for 2 Voices (165), Seven Canzonets for 3 Voices (165), 12 Canzonets (166)</u>
Mosto, Giovanni Battista	before1550-96	[The first Book of] Madrigals 1578 (152)
Negri, Domenico Francesco	f1740-50	<u>Te Deum, with Instruments in score MS (145)</u>
Palestrina [Prenestini] Giovanni Pierluigi da	1525/26-94	<u>Madrigals (166), Madrigal a 5 Voc in score MS (169), Madrigal a 5 Voc another copy rough Calf (170)</u>
Pearce, Edward	c1560-1612	<u>Madrigals, Gleees &s composed previous to 1674 MS Mr Gostling (157)</u>
Pergolesi, Giovanni Battista	1710-36	<u>Dixit Dominus, adapted to English words, MS score vocal and instrumental parts for a full Orchestra (150), Stabat Mater (144)</u>
Peudargent, Martin	c1525-30-87	<u>Motettos for 5 Voices - Duisseldorpii 1555, and others in MS 5 books (155)</u>
Playford, John	1623-87	<u>Madrigals composed previous to 1674 MS Mr Gostling (157)</u>
Preston, Christopher	b1690	<u>A Collection of antient Gleees, Songs, Motetts, Madrigals, Fancies, &c. in score MS (164)</u>
Puppi, Antonio?	18th c	<u>Missa, Laudate pueri, - 4 Voc in score MS (138)</u>
Purcell, Henry	1659-95	<u>Motetts and Anthems in score MS (142), Anthems MS (144), Fancies for 4 Voc MS (from the Rev Mr Gostling's Curious Collection) (156)</u>
Rameau, Jean-Philippe	1683-1764	<u>Scenes in Operas in score MS (165)</u>
Redford, John	d1547	<u>A Collection of antient Gleees, Songs, Motetts, Madrigals, Fancies, &c. in score MS (164)</u>
Rogers, Benjamin?	1614-98	<u>Madrigals, Gleees &c (108), in 4 parts composed previous to 1674 MS (157)</u>
Sabino, Ippolito	c1550-93	[The seventh Books of] Madrigals 1589 (152)
Savile, Jeremy	d1663/66	<u>Madrigals, Gleees &c (108), in 4 parts composed previous to 1674 MS (157)</u>
Steffani, Agostino	1654-1728	<u>Motetts Vocal, Instrumental, and Organ Parts MS (146), Motetts an Organ Part of Two Ditto MS (147), Motetts and Madrigals (165)</u>
Stradella, Alessandro	1632-82	<u>A Collection of Motetts MS, in score, from Dr Hayes's Library (141), Motetts and Madrigals (165), Madrigal Italian 31 in score MS (171), a Serenata MS (166)</u>
Stronger	?	<u>A Collection of antient Gleees, Songs, Motetts, Madrigals, Fancies, &c. in score MS (164)</u>

Sweelinck, Jan Pieterszoon	?1562-1621	Pseaumes - in 4, 5, 6 7 and 8 parts from Dr. Brewer's Collection 1614 (163)
Tallis, Thomas	c1505-85	Cantiones sacrae 1575 (153), <u>Cantiones sacrae in MS in parts - the hand writing of Mr Battihill</u> (154)
Thorn	?	<u>A Collection of antient Glees, Songs, Motetts, Madrigals, Fancies, &c. in score MS</u> (164)
Tomikins, Thomas	1572-1656	<u>A Collection of antient Glees, Songs, Motetts, Madrigals, Fancies, &c. in score MS</u> (164)
Tomkins, John?	1586-1638	<u>A Collection of antient Glees, Songs, Motetts, Madrigals, Fancies, &c. in score MS</u> (164)
Victoria, Tomas Luis de	1548-1611	Motetts and Madrigals (165)
Vinci, Leonardo	?1696-1730	<u>MS (from the Rev Mr Gosling's Curious Collection)</u> (156)
Virchi, Paolo	1551/2-1610	the 1st Book of Madrigals 1584 (152)
Vitali, Giovanni Battista?	1632-92	<u>MS (from the Rev Mr Gostling's Curious Collection)</u> (156)
Weelkes, Thomas	1576-1623	<u>Madrigals</u> (166)
Wert, Giaches de	1535-1596	<u>Madrigals</u> (166)
Wilson, Thomas?	1618-47	<u>Madrigals, Glees &s composed previous to 1674 MS Mr Gostling</u> (157)
Winflate	?	<u>A Collection of antient Glees, Songs, Motetts, Madrigals, Fancies, &c. in score MS</u> (164)
/		Pevernage's Harmonia Celeste - collection of Italian Madrigals in 4, 5, and 6 parts from Dr. Bever's Collection 1605 6 books in a case (159), Pevernage's Harmonia Celeste - Chansons spirituelles and prophanes 5 parts from Dr. Bever's Collection 1606 (160)
/		<u>curious old Motette from Eton Library copied by Mr Travers in score MS</u> (167)

Valuable Library of Music. A Catalogue of the Musical Library of Robt. Smith, Esq. 1813. より作成

残したル・ジュヌ Claude Le Jeune (1528/30-1600) の詩編集のようにプロテスタントの作品も含まれている。しかし、ここでは明確に宗教作品と認識できるミサやモテットよりも圧倒的に数多くのマドリガーレが掲載されている点を見逃すことはできない。特に16世紀末に出版されたイタリアのマドリガーレ集の充実が著しい。また、手稿譜による英語のマドリガル（あるいはイタリア語のマドリガーレ）も数多く含まれている。また、マドリガルだけでなく、モテットやグリー、更には歌曲といった広範囲のジャンルを包括した筆写譜がこの項目には数多く掲載されており、それらの楽譜に含まれる作曲家も16、17世紀の人物が中心となっている。たとえば目録番号164の選集のタイトルは『16世紀後半、17世紀初頭の古いグリー、歌曲、モテット、マドリガル、ファンシーなど珍しい価値ある選集 *A curious and valuable Collection of ancient Glees, Songs, Motetts, Madrigals Fancies, &c. in score MS. by Alfonso, Avery, Beran Bird, Carltons, Corson, O. Gibbons, Good, Kyrton, Morley, Preston, Ap Rice, Redford, Stronger, Thorn Jus. Tomkins, Tho. Tomkins, Winflare, and Goodson*, copied about the

latter end of the 16th and early part of the 17th Centuries; *with curious notes and pieces on the times, &c.*』と記され、他にも目録番号157のマドリガルやグリーなどの選集には「1674年以前の作品 *composed previous to 1674*」という記載が残されている。

また、それらの楽譜の幾つかは、スミスの手に入る以前に別の蒐集家や音楽家によって所有されていた楽譜集である点も注目に値しよう。この項目ではそれらの蒐集家として、オックスフォードを中心に活躍したウィリアム William Hayes (1708-77) とフィリップ Philip Hayes (1738-97) のヘイズ父子、カンタベリーを中心に活動をおこなっていた大聖堂歌手のゴスリング William Gostling (1696-1777)、他にもトラヴァーズやその教え子のパロウ Thomas Barrow (?1722-89)、こちらも古楽蒐集家として知られていたビーバー Thomas Bever (1725-91) の名前が確認できる。ゴスリングは父親のジョン John Gostling (1650-1733) から引き継いだコレクションを含め1,500点ほどの筆写譜や印刷譜を所有していた。前述のル・ジュヌの作品を含む目録番号156と157の楽譜は元来ゴスリングの手元にあったものである⁽³⁰⁾。ト

ラヴァーズはオルガニストであるとともに筆写譜作成者としても活動しており、彼はペープシュと親交を深め、1752年にペープシュが死去した際に彼の蔵書の一部を遺言で譲渡されたようである。そして、1758年にトラヴァーズが亡くなると、彼の所蔵物は弟子のバロウに引き継がれた。バロウは1746年6月からチャペル・ロイヤルの筆写係を務め、同年にジェントルマンに任命され死去する直前までその任務を遂行しており (Laurie 1980: 44)、数々の古楽作品に触れる機会が大いにあったと考えられる。トラヴァーズはペープシュから16世紀末から17世紀初頭の古楽の薫陶を受けたといわれるが、そのコレクションの中からスミスは目録番号167の『イトン・クワイアブック The Eton Choirbook』⁽³¹⁾に含まれていたと思われる作品の写しなどを入手している。オックスフォード大学と縁の深いビーバーのコレクションは一部がヒンドル John Hindle (1761-96) に譲渡され、1798年に競売にかけられた (Charteris 2000: 180-181)。キングによるとバロウを除く上記の蒐集家の蔵書は死後に競売にかけられており (King 1963: 132)、スミスがそれらのオークションに参加したかは不明であるが、ビーバーの所蔵楽譜の幾つかをスミスは入手している (目録番号158-163)。また、ビーバーは1783年にスミスが自宅でグリー・クラブの前身となる会合を開催している際から参加し、ビーバーのコレクションに含まれる作品が披露されていた (Glee Club Register)。ここから、スミスだけでなく他の古楽蒐集家にとっても、この分野の作品は非常に魅力的なもので様々な愛好家の手を渡ったことが読み取れよう。

7 イタリア語作品

このイタリア語作品目録 (表9) を一瞥した際にまず目に留まる点は、イタリア語作品に関するスミスのコレクションの大部分が総譜による手稿譜であるということである。18世紀中にイタリア語作品が大規模な出版譜の形態で出回ることが皆無というわけではないものの、英語作品と比較すると格段に市場が狭まるために、出版が限定的になることは容易に想像がつく。そして、それらの手稿譜は様々な作曲家の選集だけでなく、ある一人の作曲家のオペラやセレナータ、カンタータ作品の全曲あるいは抜粋による楽譜が多数含まれていることも確認できる。その作曲家は17世紀末から18世紀中葉までの時期に活躍した人物が主となっているものの、ロッシ Luigi Rossi (1598-1653) のような17世紀前半の作曲家

のオペラも含まれている。この目録の中で注目すべき作曲家はまず、ナポリ派の発展に大きく寄与したといわれるスカラルラッティ Alessandro Scarlatti (1660-1725) であろう。彼の作品のうち目録内で作品名が記載されているものは、セレナータ《ウェヌスとアモレ Venere ed Amore》、セレナータと目録では記載されているが実際にはオペラの《顔の取り違え Gli equivoci nel sembiante》とオペラ《ピュロスとデメトリオス Il Pirro e Demetrio》である。この中で、《ピュロスとデメトリオス》はウォルシュ John Walsh (1665/66-1736) が1709年に英語版の出版譜の広告をデイリー・クラント紙 the Daily Courant に掲載しており (Smith, 1948: 91-93)⁽³³⁾、上記の作品の中でこの《ピュロスとデメトリオス》のみ単独作品としての出版譜の存在を確認することができた。シュナイダーの調査によれば、ロンドンではスカラルラッティの作品は18世紀中葉まで、キングズ (クイーンズ) 劇場を中心に数年に1回程度の割合で上演されていたが、スミスの存命中にオペラ劇場でスカラルラッティの音楽が採り上げられた形跡は1757年3月24日のみで (Schneider 1979: 747)、コンサートを含めて頻繁に上演されていたわけではない。そのような中で選集も含めると9つの目録番号にスカラルラッティの名前が記されている。更には、ミサ曲の項目で紹介した古楽愛好家トラヴァーズ——彼の筆写活動の範疇からするとスカラルラッティの作品は新しい音楽の分類になるであろうが——の名が付記された手稿譜が目録番号97として記載されていることから、愛好家の中ではスカラルラッティの名は十分に知られており蒐集の対象となっていたと考えられる。

スカラルラッティ後の世代で比較的多くの目録番号が与えられている作曲家に、ボノンチーニ Giovanni Bononcini (1670-1747)、ヴィンチ Leonardo Vinci (?1696-1730)、ハッセ Johann Adolf Hasse (1699-1783)、ペルゴレージ Giovanni Battista Pergolesi (1710-36) が挙げられよう。ここで挙げられた作曲家の中で、ボノンチーニは1720年代にヘンデルとともにロイヤル・アカデミー・オヴ・ミュージックを牽引しており、ロンドンでも多数の作品が上演されていた人気作曲家の一人であった。意外なことにボノンチーニの作品は18世紀末の古楽団体では採り上げられることはなかったものの、他の3名の作品は、18世紀末にあっても古楽団体の主要なレパートリーを形成していた。特にヴィンチの《アルタセルセ Artaserse》のアリア〈我は水を切って進む Vo Solcando〉は、古楽団体のコンサートにおいてイタリア語オペラ・アリアの中でも最も頻繁に採り上げられる人気作品の一つであっ

表9 イタリア語作品一覧

Composers		Titles
Alberti, Domenico?	c1710-1746	<u>A Collection of Italian Songs MS, Arie diverse (254)</u>
Anfossi, Pasquale	1727-97	<u>La Serva Spiriosa [1763] in score MS (271)</u>
Arena, Giuseppe	1713-84	<u>L'Achille [in Sciro] [1738], (rough calf), in score MS (273)</u>
Ariosti, Attilio	1666-1729	<u>Tito Manlio [1717] in score MS (112), Gioxoso [?] in score MS (270), Italian Air in score (127), A Collection of Italian Songs MS, Arie diverse (254)</u>
Auletta, Pietro?	c1698-1771	<u>Italian Air in score (127), Arie Diversi, in score MS (259), A Collection of Italian Songs MS, Arie diverse (254)</u>
Badia, Carlo Agostino	1672-1738	<u>12 Cantate, a Voce Sola, MS (266)</u>
Bassani	?	<u>Il Nevello Giasone [?] in score MS (121), Cantate, a Voce Solo, in score MS (264)</u>
Bazili	?	<u>Italian Air in score (127)</u>
Bononcini, Giovanni	1670-1747	<u>Opera of Giasone [?] MS? (93), Opera, France, MS rough calf (102), Duets, Madrigals, &c, in Score, MS (92), Opera, France, MS rough calf (102), an Italian Opera in score MS (255), Cantata a Voce Sola, in score MS (260), Cantate, in score MS (263)</u>
Borghi, Giovanni Battista?	1738-96	<u>Il Tutore Deluso [1762] in score MS (110)</u>
Cesti, Antonio	1623-69	<u>La Dori [1657], ouero La Schiva fidele [?], in score MS (274)</u>
Chella	?	<u>Cantate, in score MS (263)</u>
Costanza	?	<u>Arie Diversi, in score MS (259)</u>
da Capua, Rinaldo	c1705-c80	<u>La Bohémienne [La zingara], intermede, Paris, 1753 in score (134)</u>
Doria	?	<u>A Collection of Italian Songs MS, Arie diverse (254)</u>
Sarri, Domenico Natale	1679-1744	<u>Le Gare Generose (rough calf) [?1706] in score MS (275), Serenata, 3 Voce, con Stromenti (rough calf), in score MS (276)</u>
Feux, G	?	<u>Eliza, Amsterdam, in score MS (272)</u>
Franchi, Carlo	?1743-?79	<u>Ifigenia [1766] in score MS (109)</u>
Giacomelli, Geminiano	c1692-1740	<u>Lucio Papirio divatore, 1729 in score MS (118)</u>
Gabrielli, Domenico	1659-90	<u>Opera Carlo il Grande [1688] in score MS (258)</u>
Galuppi, Baldassare	1706-85	<u>Opera La Calamita de Cuori [1752] MS rough calf (101), A Collection of Italian Songs MS, Arie diverse (254)</u>
Gasparini, Francesco	1661-1727	<u>Lucio Vero [1719] in score MS (117), Cantate, in score MS (263)</u>
Gastoldi, Giovanni Giacomo	c1554-1609	<u>Ballets, Fal-las, Canzonettes, &c. Italian, for 3 and 4 Voices in Score Mr. Barrow's writing (103)</u>
Gio	?	<u>Arie Diversi, in score MS (259)</u>
Gluck, Christoph Willibald Ritter von	1714-87	<u>A Collection of Italian Songs MS, Arie diverse (254)</u>
Graun, Carl Heinrich	1703/4-59	<u>Opera of Caesare and Cleopatra [1742], in Score, MS (91)</u>
Handel, George Frideric	1685-1759	<u>Arie Diversi, a fine selection, in score MS (257), Cantate, in score MS (263), Italian Duets, Songs &c various, MS (267)</u>
Hasse, Johann Adolf	1699-1783	<u>Three Operas, Arminio [1730]*, Antigono [1743] and Artaserse [1730], MS (100), Opera Tigrane [1729] MS rough calf (99), Italian Air in score (127), Opera Songs in score (128), Opera Songs in score (129), A Collection of Italian Songs MS, Arie diverse (254), Arie Diversi, a fine selection, in score MS (257)</u>

Jommelli, Niccolo	1714-74	<u>La Betulia liberata [1743] Oratorio 4 Voc. In score MS (111), A Collection of Italian Songs MS Arie diverse (254), Select Italian Songs, MS (265)</u>
Lanciani, Flavio Carlo	1661-1706	<u>Amore e Gratitude [1690] in score MS. Rough calf (105)</u>
Leo, Loenardo	1694-1744	<u>A Collection of Italian Songs MS, Arie diverse (254), Arie Diversi, in score MS (259), Italian Air in score (127)</u>
Logrosino	?	<u>A Collection of Italian Songs MS, Arie diverse (254)</u>
Manna, Gennaro?	1715-79	<u>A Collection of Italian Songs MS, Arie diverse (254)</u>
Marcello, Beneetto Giacomo?	1686-1739	<u>Cantate, in score MS (263)</u>
Orlandini, Giuseppe Maria	1676-1760	<u>A Collection of Italian Songs MS, Arie diverse (254)</u>
Perez, David	1711-78	<u>A Collection of Italian Songs MS, Arie diverse (254), Arie Diversi, original score, MS (262)</u>
Pergolesi, Giovanni Battista	1710-36	<u>Olympiade, 1735 in score MS (106), Tracollo - Intermede - Paris, 1753 in score (133), Italian Air in score (127), A Collection of Italian Songs MS, Arie diverse (254)</u>
Peri, Jacopo	1561-1633	<u>Euridice - Fiorenza, 1600 in score (132)</u>
Philidor, François-Andre Danican	1726-95	<u>Tom Jones [1765], Comedie Lyrique in score (136)</u>
Philips	?	<u>Ballets, Fal-las, Canzonettes, &c. Italian, for 3 and 4 Voices in Score Mr. Barrow's writing (103)</u>
Piccini, Niccolo	1728-1800	<u>Artaserse [1762] in score MS (107), La Pescatrice [1766] a 4 Voce in score MS (108)</u>
Pollaroli, Carlo Francesco	c1653-1723	<u>La Forza della Virtu [1693] in score MS (119), La Fede Riconosciuta [1707] in score MS (120)</u>
Porpora, Nicola	1685-1768	<u>A Collection of Italian Songs MS, Arie diverse (254)</u>
Prediere	?	<u>Cantata di Camera, in score MS (261)</u>
Ristori, Giovanni Alberto	1692-1753	<u>Cantate, in score MS (263)</u>
Rossi, Luigi	1597/8-1653	<u>Il Palazzo Incanto [1642] in Score MS. Rough calf (104)</u>
Sabatini	?	<u>A Collection of Italian Songs MS Arie diverse (254)</u>
Scarlatti, Alessandro	1660-1725	<u>A Collection of Italian Songs MS Arie diverse (254), Serenata — Venere ed Amore [1695-1700] in score [?] (94), Serenata a 3 Voci. con Stromenti in score rough calf (95), Serenata, Gli equivoci nel sembiante [1679] in score, rough Calf (96), Cantate, in Mr. Travers's writing rough calf (97), Opera Il Pirro e Demetrio [1694] MS rough calf (98), Cantata a Voce Sola in score MS (260), Italian Songs in score MS (256), Opera Songs, &c. in score (125)</u>
Sain Germain, Court of	?-1784	<u>Select Songs printed in Score (130)</u>
Stiparolli	?	<u>Cantate, in score MS (263)</u>
Stuck, Jean-Baptiste	1680-1755	<u>Cantata Francoise, 1 and 2 Voc. Avec Symphonies, Paris, 1718, in score (135)</u>
Sweeling, Jan Pieterszoon	?1562-1621	<u>Ballets, Fal-las, Canzonettes, &c. Italian, for 3 and 4 Voices in Score Mr. Barrow's writing (103)</u>
Vecchi, Lorenzo	1564-1628	<u>Ballets, Fal-las, Canzonettes, &c. Italian, for 3 and 4 Voices in Score Mr. Barrow's writing (103)</u>
Veracini, Francesco Maria?	1690-1768	<u>Cantate, in score MS (263)</u>

Vinci, Leonardo	?1696–1730	<u>Artaserse, 1730 in score MS (115), Vincitor Generoso, 1727 in score MS (114), Didone in score MS (116), Opera Songs in score (128), A Collection of Italian Songs MS Arie diverse (254), Arie Diversi, a fine selection, in score MS (257), Arie Diversi, in score MS (259)</u>
/ [Albinoni, Tomaso?]	1671–1750	<u>Arie dell Opera L'inganno innocente [1701] in score MS (122)</u>
/		<u>Agrippina an Opera in score MS (113)</u>
/		<u>Il Dario, corrected, in score MS (269)</u>
/		<u>Il Teuzzone, corrected, in score MS (268)</u>
/		<u>Arie Italiano, very scarce in score MS (123), Opera Songs in score MS (124), Italian Duets and Trios in score (126), Italian Cantatas title wanting in score (131),</u>

Valuable Library of Music. A Catalogue of the Musical Library of Robt. Smith, Esq. 1813. より作成

た。そのような作品を含む人気作曲家の楽譜もスミスの蔵書に含まれていたことが確認された。

更に精査を進めていくと、タイトルや作曲家の判明している作品の中で1770年代以降の作品が含まれていないことが判明した。殊にイタリア・オペラの分野では、大陸からの遅れはあるものの一般的には最新の作品を求める動きが強く、18世紀末にはパイジエッロ Giovanni Paisiello (1740–1816) らの人気作曲家の楽譜が出回っていたと想像できる。シュナッパーの調査によれば、パイジエッロの人気を博したオペラ作品は、数々のアリアや重唱が単品ピースで出版されており、1791年にロンドンのパンテオンで上演された《ロカンダ La Locanda》の楽譜は10種類を超えて出版されている (Schnapper 1957: 755–758)。この目録から判断すれば、スミスはそれらの新しいタイプのオペラを積極的に蒐集していないように思われる。もちろん、この目録で作曲者名が明記されているオペラは全曲版のようにまとまったものが多く、パイジエッロのオペラではそのような楽譜が出版されていないことが彼の名前が挙がらない要因の一つかもしれない。また、目録には作曲者名が記載されていない選集も多数含まれているため、その中に埋没している可能性もある。しかしながら、選集の主要作曲家として挙げられているものも、その多くが18世紀半ばまでが旬の作曲家となっている。その選集の中で、最も規模が大きいものが目録番号254を与えられた手稿譜である。この選集のタイトルは『イタリア歌曲の大規模な選集 A large and select Collection of Italian Songs, MS. in score, by Alberti, Galuppi, Gluck, Hasse, Logrosino, Porpora, Vinci, Manna, Perez, Sabatini, Leo, Scarlatti, Auletto, Atilla, Doria, Jomelli, Orlandini, Pergolese, Scarlatti, & many other great masters, neatly bound and lettered, “Arie

diverse,” 12 vols.』と記されている。ここに挙げられた作曲家全てを判別することはできなかったものの、確認できた範囲では18世紀末まで第一線で作品を残していた作曲家は確認できなかった。

更に、他の選集を確認していくと目録番号103のように16世紀末に活躍した作曲家の作品を集めたものも含まれている。目録にはこの選集の項目にこれまでも登場したチャペル・ロイヤルの筆写係のバロウの名前が記載されているところから彼の蔵書の一部であったと推測されよう。他にも現存する最古のオペラであるペーリ Jacopo Peri (1651–1633) の《エウリデーチェ Euridice》も目録に挙げられており (番号132)、イタリア語作品における——オペラでは特に最新のものが好まれる傾向が一般的には強いものの——過去の作品をスミスが好む傾向にあったことが明確に読み取れよう。

8 キャッチとグリー

2日目に置かれたキャッチとグリーを中心とする目録をまとめたものが表10である。この項目の特徴として、大部分の楽譜が印刷譜で、手稿譜はスタッフォード・スミス John Stafford Smith (1750–1837) などごく限られたもの以外、目録に掲載されていないことが挙げられる。このことは非常に意外に感じられよう。なぜなら、スミスはグリー・クラブの創設者であり、キャッチやグリーにはとりわけ造詣が深く、ソサエティの会合での披露用、あるいは、個人的な蒐集物として数々の貴重な楽譜を所有していたであろうと考えられるためである。そして、もう一つ注目すべき点は、ここに挙げられている作曲家は、16世紀のモーリー Thomas Morley (1557/58–1602)、17世紀のプロウとパーセルを除くと、全て18世

表10 グリー, キャッチ作品一覧表

Composers		Titles
Arne, Thomas Augustine	1710-78	Two Collections (243), Anthem, in score (252)
Atterbury, Luffmann	1740-96	Collection (236)
Baildon, Joseph	c1727-74	Glees (236), Two Collections (243)
Barsanti, Francesco	1690-1772	Antiphonie's (232)
Battishill, Jonathan	1738-1801	Songs (231), Songs (237)
Blow, John	1649-1708	The Catch Club (238), the Pleasant Musical Companion (243)
Boyce, William	1711-79	Two Collections (243)
Callcott, John Wall	1766-1821	1st Book (229), (231), Glees (240), 1 Glee? (242)
Cooke, Benjamin	1734-93	Ode on Handel, Collection of Glees (237), Glees 1st and 2d Collection (239)
Cooke, Robert	1768-1814	Eight Glees, 1805 (248)
Corfe, Joseph?	1741-1820	Glees (235), Glees (236), 3d set (239), (241), Treatise on Singing (241), 9 Trios, arranged (242), 12 Glees (242)
Crotch, William	1775-1847	Methinks I hear (242)
Danby, John	c1757-98	1st book [1785] (229), (237), 2nd book [1789] (233), (234), 3rd book [1796] (240), Posthumous Glees (240)
Giordani, Tommaso	c1730/3-1806	Canzonets (238)
Handel, George Frideric	1685-1759	<u>a Chorus, Alexander's Feast, MS, in score and various other parts</u> (252)
Hayes, William?	1708-77	Glees &c books 1st, 2d, and 3d (238), Two Collections (243)
Hayes, Philip	1738-97	Harmonia Wiccamica (240), (241), (242)
Horsley, William	1774-1858	Glees, Op. 3 (242), 2d Collection of Glees, Madrigals (247)
Hutchinson, Francis?	1721-84	<u>Glees, &c. single, MS.</u> (251)
Sale, John	1734-1802	Collection of Glee (241)
Knyvett, Charles	1752-1822	Collection of Glees for the Premiums, 1800 (241)
Morley, Thomas	1557/58-1602	Canzonets for 2 Voices (252)
Nares, James	1715-1783	Colleciton (236)
Norris, Thomas?	1741-90	<u>Glees, &c. single, MS.</u> (251)
Paxton, Stephen	1734-87	Glees (231), Glees (232)
Pring, Jacob Cubitt	1770-99	1st book [1797] (240)
Purcell, Henry	1659-95	The Catch Club (238), the Pleasant Musical Companion (243)
Scott, John?	c1775-1815	3d set (241)
Smith, John Stafford	1750-1837	New Songs (229), <u>Glees, Songs &c printed and MS. The Score and Instrumental Parts of Hark the Hollow Woods</u> (250)
Stevens, Richard John Samuel	1757-1837	10 Glees, Op. 5 - Glee Club Ode (242), Seven Glees, Op. 8 (249), 8 Glees (233), 8 Glees (234), 1 set (239), 2 Glees? (240), 1 Glee? (242)
Travers, John	c1703-58	a part Song, in score, and a Pastral Elegy, in score (251)
Webbe, Samuel	1740-1816	Glees, No. 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8 and 9 (230), 9th book (233), (234), 1 Glee? (240), Glees (242)

/		Warren's Collections of Catches, Gleees &c. the whole thirty-two numbers compleat (219), Warren's Collection 8th, 25th, 26th, 27th, 28th, 29th, 30th, 31st, 32nd (220-228), Warren's Collection (236)
/		the Ladies Amusement 1st, 2d and 3d Books (232), 1st and 2nd Books (235), 7th and 8th Books (233), (234)
/		Vocal Concert Gleees, &c. (235), Professional Collection (236), the Opera of Dnenna (242)
/		Hale's Social Harmony (244), Webb's (the Rev. Richard) Collection of Madrigals of the 15th and 16th Centuries (245), Hutchison's Collection of Gleees, Madrigals &c (246)
/		Letters to and from Singers, A Loti (253)

Valuable Library of Music. A Catalogue of the Musical Library of Robt. Smith, Esq. 1813. より作成

紀、それも大部分が18世紀後半の作曲家となっている点である。ここまでの目録の調査から、スミスはとりわけ宗教音楽において、16、17世紀の作品の楽譜を多数、所蔵していたことが判明している。しかし、最初に確認した英語声楽作品にもグリーが多数含まれていたが、そこでもこの項目同様に18世紀の作品が圧倒的に多数を占めていた。これほどまで18世紀後半に特化したこの分野では、他のジャンルと著しく傾向が異なることが確認できる。

それでは古い時代のキャッチやグリーはどこにあるのであろうか。印刷譜としてウォレン・ホーンの32巻からなるキャッチやグリー集（目録番号219-228）にも16、17世紀の作品は収録されているが、それらの時代の作品は、主にミサ曲、モテット、マドリガルの中に組み込まれているといえよう。ミサ曲などの項目には、非常に雑多なジャンルを含んだ手稿譜が数多く記載されていたことを既に述べた。この項目の重要なジャンルの一つであるマドリガルは、グリーを好んで取り上げる音楽団体——1741年に設立されたマドリガル・ソサエティなど——でパートソング、キャッチなどとともに歌われていた。したがって、古い時代のこれらの無伴奏の合唱作品をその源流の一つであるマドリガルの項目に集約させたと考えられることは可能であろう。また、複雑な対位法を用いず、高度な音楽技法を使うことも少ないグリーとの形式の違いからも、古い作品と18世紀の作品を区別していたとも考えられる。

続いて、グリーやキャッチの手稿譜の問題である。出版譜では18世紀の作品が大部分を占めていたにもかかわらず、同時代の手稿譜が見られないのは不自然に思われる。今回の調査ではこの疑問点を解明する糸口を掴むことはできなかった。ただし、以下のような仮説を立て

ることは可能であろう。

一つは、グリーやキャッチ作品の流布の方法である。前述のウォレン・ホーンの出版物を筆頭に選集やグリー作曲家の作品集がとりわけ18世紀末に数多く出版されていた（Rubin 2003: 379-383）。これは、グリーを取り上げる団体が18世紀半ば以降に創設が相次いだことによる。すなわち、グリーの需要が高まるとともに出版譜の需要も高まるという図式である。したがって、主要な作曲家の作品は曲集の形態だけでなく単品の出版も含めて出版譜で大部分が入手可能なため、わざわざ筆写する必要がない。そのため、グリーやキャッチの項目には手稿譜がほとんど含まれていないという考えである。

もう一つは、彼の創設したグリー・クラブのコレクションとして所蔵されたという考えである。前述のようにスミスは彼の遺志としてグリー・クラブの会合でも1761年に設立された通称キャッチ・クラブのように優れた作品の表彰を後世の会員に託している。ここから、グリー・クラブには出版前の作品が数多く持ち込まれ披露されていたと考えられる。したがって、18世紀——スミスが没するときには既に19世紀に突入しているが——後半、とりわけ、グリー・クラブが発足した18世紀末の貴重な自筆譜は新作とともにクラブによって保管されていたのではと推測できないだろうか。グリー・クラブの設立当初のメンバーでこの団体のために《偉大なるアポロ Glorious Apollo⁽³⁶⁾》を作曲したウェブ Samuel Webbe (1740-1816) が司書に就任しており（Glee Club Register）、クラブにもコレクションが存在していた可能性は高い。そのため、この目録には比較的容易に入手できる印刷譜、それも、既にクラブのメンバーが所有していたり、あるいはクラブのコレクションに含まれていたりするもののみが掲載されていた可能はなからうか。

また、スミスの息子ヘンリー・ベイツ Henry Bates Smithも1806年からクラブに加入し1817年からは会計役に就任しているため (Glee Club Register), 父のコレクションから必要な楽譜を彼が引き継いでいる可能性は高い。

まとめ

ここまで、1813年に開催されたスミスの音楽蔵書のオークション目録を精査し、その目録に記載された作品にどのような傾向があるのか、そして、スミスの音楽嗜好がどのようなものだったのかを考察していった。そこから、従来から言及されていたようにスミスのコレクションに占めるヘンデル作品の重要性以外に、グリーやキャッチを含む英語声楽作品と分類される作品には比較的17世紀後半から18世紀に作曲されたものが多く、イギリス国教会のアンセムやサーヴィスに関しては、幅広い時期の作品を網羅しつつも、英語の世俗声楽作品と異なりイギリス国教会の黎明期といえる16世紀の作品も手稿譜を中心に大きな比重を負っていることが読み取れた。イギリス国教会以外の宗教音楽についても、16世紀から17世紀初頭の作品が数多く見られ、その分類項目に含まれたマドリガルでは、16世紀末の出版譜が充実していたといえよう。また、この項目に英語のマドリガルも多数、含まれている。この競売目録ではなぜ、イギリスで16世紀末から17世紀初頭に人気を博したマドリガルが英語声楽作品ではなくこの項目に含まれているかという疑問が湧いてくるが、英語のマドリガルがイタリアのマドリガレから派生したことにより、そのルーツと同じ項目に統一したと考えられよう。ただし、キャッチやグリーの項目との目録に占める作曲年代や手稿譜の比重における大きな違い——マドリガルは古い時代で筆写譜が多くを占め、キャッチやグリーは18世紀後半が中心で手稿譜は例外的——から、時代や形式の違いから意図的に区別して配置した可能性も指摘できよう。18世紀に合唱活動がイギリスで盛んになるにつれて、これらマドリガルが合唱で歌われるようになるが、あくまでマドリガルは古い音楽であるとともに対位法を用いるなどグリーと比較して高度な音楽となっており、18世紀のグリーやキャッチと一線を引くという概念が存在していたという可能性である。目録のマドリガルの項目にグリーが含まれていたが、これは一般に17世紀半ば以前の作品で、マドリガルほど古くはないものの18世紀後半のものとは大きな隔りがある。手稿譜の少なさにつ

いては、18世紀末のグリーの出版楽譜の増加にともない一般的な作品を手稿譜で入手する必要がなかった可能性を指摘した。また、16, 17世紀のマドリガルやグリーなどを軽視していたわけではないが、無伴奏合唱曲においてスミスの視線はより現代に向いていた。そこで彼は亡くなる前に、自身が設立したグリー・クラブで新たに披露された優秀な作品を表彰することを提示し、次々に誕生する新しい作品はクラブで所蔵したために競売目録にはほとんど掲載されず、彼の所蔵していた同時代の出版譜は既にクラブも所有しており、残す必要がなかった可能性も考えられる。ほかのジャンル——最新の音楽がもてはやされるイタリア・オペラ作品においても——では比較的古めの作品がこの目録の主要部分となっている中で、このグリーとキャッチの突出した同時代作品の多さの理由の一因としてそのように推測する。

本論文では、競売目録のみからスミスの音楽嗜好を探っていった。しかし、これだけでは不十分であることは否めない。そこで、彼が演目選定に関わった古楽アカデミーのプログラムとこの競売目録と照らし合わせることにより、より深くスミスの音楽嗜好を読み解いていくことを次の課題として提示することで、本論文を閉じることにする。

一次史料

- Handel, George Frideric. *Acis & Galatea*. MS. BL: Egerton M.S. 2953.
- Lawes, Henry. *Music Manuscript: Songs by Henry Lawes, Gentleman of the Chapel Royal; circa 1626–1662*. BL: Add M.S. 53723.
- Purcell, Daniel. *Judgement of Paris*. MS. BL: Add M.S. 29398.
- Collection of Anthems, in score, begun by R. Guise in 1768, and apparently in his hand*. 1768. BL: Add M.S. 39572
- Glee Club Register*. n. d. 本論文筆者所有。
- The Jackson's Oxford Journal*, Saturday March 3rd, Issue 2966.
- List of Subscribers to the Academy of Ancient Music*. MS. Lewis Walpole Library: LWL Mss Vol. 121.
- Valuable Library of Music. A Catalogue of the Musical Library of Robt. Smith, Esq.* 1813. BL: Hirsch IV. 1091
- The Will of Robert Smith. Public Record Office: PROB11/1509.

引用文献

- Barrett, William Alex. 1886. *English Glee and Part-Songs*. London: Longmans Green, and Co.
- Charteris, Richard. 2000. 'Thomas Bever and Rediscovered Sources in the Staats- und Universitätsbibliothek, Hamburg.' *Music & Letters*, Vol. 81, No. 2: 177–209.

- Coopersmith, J. M. 1947a. 'The First Gesamtausgabe: Dr. Arnold's Edition of Handel's Works.' *Notes*, Second Series, Vol. 4, No. 3: 277-291.
- . 1947b. 'The First Gesamtausgabe: Dr. Arnold Edition of Handel's Works.' *Notes*, Second Series, Vol. 4, No. 4: 438-449.
- King, Alec Hyatt. 1963. *Some British Collectors of Music c. 1600-1900*. Cambridge University Press.
- Laurie, Margaret. 1980. 'The Chapel Royal Part-Books.' In *Music and Bibliography: Essays in honour of Alec Hyatt King*. Ed. Oliver Neighbour. New York: K. G. Saur Clive Bingley: 28-50
- Roe, Lucy. 2003. 'Robert Smith, Music Collector.' *The Handel Institute Newsletter*, Vol. 14 No. 2: 5-8.
- Rubin, Emanuel. 2003. *The English Glee in the Reign of George III: Participatory Art Music for an Urban Society*. Warren: Harmony Part Press.
- Schnapper, Edith B.. 1957. *The British Union-Catalogue of Early Music printed before the year 1801*. 2 vols. London: Butterworths Scientific Publication.
- Schneider, jr., Ben Ross. 1979. *Index to the London Stage*. Southern Illinois University Press.
- Smith, William C.. 1948. *A Bibliography of the Musical Works Published by John Walsh during the Years 1695-1720*. London: The Bibliographical Society.
- and Charles Humphries. *A Bibliography of the Musical Works Published by John Walsh during the Years 1721-1766*. London: The Bibliographical Society.
- Stevens, Richard John Samuel. 1992. *Recollections of R.J.S. Stevens: an Organist in Georgian London*. Ed. Mark Argent. Carbondale and Edwardsville: Southern Illinois University Press.
- 吉江秀和. 2012. 「18世紀末の古楽アカデミー——サミュエル・アーノルドの指揮者就任の背景に関する一考察——」『音楽学』第58巻2号: 83-97.
- British Library Archives and Manuscript Catalogue. <http://searcharchives.bl.uk/>

注

- (1) *Glee Club Register*においてスミスは、会計役 Treasurer, 世話役 Steward, クラブの創始者 Father of the Club と記されている
- (2) この部分は特記のない限りローの調査 (Roe 2003: 5-8) を参考に述べられている。
- (3) 彼がセント・ポール大聖堂の聖歌隊であったという記述は、時期は異なるが同じく聖歌隊員であった作曲家ステイーヴンズ Richard John Samuel Stevens (1757-1837) の記述による。ステイーヴンズは彼の回想録で1797年にグリー・クラブに参加したことも記している (Stevens 1992: 107-108)。
- (4) ここには翌シーズンの予約者117名の署名がなされており、予約者の影響力の強化と予約者数の制限を求める旨が記されている。
- (5) 古楽アカデミーの役職が担っていた業務やその他の役員メンバーについては (吉江2012: 86-90) を参照。
- (6) 1810年3月3日のジャクソンズ・オックスフォード・ジャーナル紙 *the Jackson's Oxford Journal* の死亡記事では70歳で死去と記されている。
- (7) 番号78は2つあり、一つがアトウッド Thomas Attwood (1765-1838) がネルソン提督の葬儀のために作曲したサーヴィスと哀悼歌《The Burial Service for Lord Nelson and Dirge》, もう一つがアステリスキのついた、パレストリーナの手稿パート譜による『5声のアンセム, ラテン語のモテット Prenestini, Anthem, 5 Voc. and Latin Motetts』, ストラデッラ Alessandro Stradella (1639-82) の《a Serenata》セレナータ, そして『マドリガーレとフランス歌曲 Madrigals and French Songs』となっている。
- (8) たとえば、キャッチャグリーのジャンルに充てられた番号252には、モーリー Thomas Morley (1558-1602) の《2声のカンツォネッタ Morley's Canzonets for 2 Voices》以外に、総譜のアーンの《アンセム Anthem》やヘンデルの《アレクサンダーの饗宴 a Chorus, Alexander's Feast and various other parts.》からの合唱曲の総譜などが含まれている。
- (9) コレツリ Arcangelo Corelli (1653-1713) の、ペープシュ版による《48曲からなる総譜のソナタ集 Corelli's 4 sets of Sonatas (48), Dr. Pepusch's Edition.》(目録番号79) と《12の協奏曲 (恐らく合奏協奏曲) Twelve Concertos, Dr. Pepusch's Edition.》(番号80), ドイツやイタリアの作曲家による手稿譜による『トリオ・ソナタ集 Trios for two Violins and a Violoncello, Sonatas, by Corelli, Zimmerman, Stamitz, Gasparini, M. Chrysa, Bach, &c.』『Trios for two Violins and Violoncello, Sonatas, by Ruge, Brioschi, Roscio, Barbella, Breunich, St. Martini, Jomelli, &c.』(番号81, 82), チェコのシュテュパーン Josef Anton Štěpán [Stephani] (1726-97) とされる作曲家のバリで出版された《3曲のピアノ協奏曲 G.A. Steffani 3 Concertos pour le Piano-forte, with Accompaniments. Paris.》(番号83)。
- (10) ホーキンス John Hawkins (1719-89) やバーニー Charles Burney (1726-1814) の『音楽通史 General History of Music』(目録番号84, 85), バーニーの『フランス, イタリア, ドイツ, ネーデルラントにおける音楽の現状 The Present State of Music in France, Italy, German, &c』(番号86), 『ヘンデル記念祭の報告 Account of Commemoration of Handel』(番号87), モーリーの『簡明で平易な実践音楽入門 introduction to Practical Muicke』の1597年版の2つ(番号88, 89) と1771年のウォルシュ版 (番号90)。
- (11) 目録ではヘンデル作品の項目をこのように一枠作成しているが, 他の項目にもヘンデル作品が含まれている。目録番号10, 13, 26-28, 67, 199, 252, 257, 263, 267。
- (12) 第1番, 第2番, 第5番, 第9番, 第10番の5曲。『アンセム集』はジョージ3世のキングズ・ライブラリーに所蔵されていたもので, 入手日と思われる1803年7月8日の記載がスミスによってなされている。ローによると, この筆

- 写譜はジョージ3世がウィンザーの聖ジョージ礼拝堂のオルガニストを務めたエイルワードTheodore Aylward (c1730-1801) に下賜したもので、スミスはハミルトン氏Mr Hamiltonから購入した (Roe 2003: 8)。
- (13) 大英図書館のこの資料について、この楽譜は大部分がスミス (父) によって作成されたが、最後の一部分がヘンデルの自筆譜から採られているとデータベースでは記されている。
- (14) British Library Archives and Manuscript Catalogue で検索。
<http://searcharchives.bl.uk/>
- (15) 競売目録では筆写した人物が記載されておらず、一方の大英図書館の蔵書はスミス本人によるものと言及しているものの、今回の調査でその資料を確認できなかったためここでは除外した。
- (16) この格言は《エイシスとガラテア》の筆写譜に貼り付けられた蔵書票に印刷されている。
- (17) 住所が記載されている蔵書票はダニエル・パーセル Daniel Purcell (c1664-1717) の《パリスの審判 Judgement of Paris》の筆写譜 (BL: Add. M.S. 29398) に添付されている。
- (18) 競売目録とスミス・コレクションとの不一致についてはローも言及している (Roe 2003: 8)。
- (19) 大英図書館のデータベースの手稿譜情報では、蔵書票の添付されている2つの手稿譜についてはその蔵書票の存在も記載されているが、疑問視されている8つの手稿譜については蔵書票への言及は見られなかった。また、ローは、大英図書館にスミスの紋章と蔵書票の付された楽譜が14巻所蔵されていると述べている (Roe 2003: 5 footnote)。
- (20) このアーノルド版の全容についてはクーパースミスの研究 (Coopersmith 1947a, 1947b) に詳しい。
- (21) この楽譜は大英図書館に現在、BL Egerton M.S. 2957 の目録番号で所蔵されている。
- (22) また、この78*にはストラデッラの作品やフランス語の歌曲も含まれている。
- (23) 1800年までの出版譜を確認するのに有用なシュナッパーの調査でも、パレストリーナの項目にはアンセムの出版物は掲載されていない (Schnapper 1957: 758-760)。
- (24) Anthems and motets, chiefly with Latin words, but some adapted for English Church use, by Palestrina, Victoria, E. Lupi, Carissimi, Turini, Steffani, A. Lotti, B. Marcello, Pergolesi, and Jommelli. In score. (BL: Add M.S. 31818)
- (25) クック Robert Cooke (1768-1814) とタール James Turle (1800-82) の作品が1836年に追加されたと大英図書館の情報では記されている。
- (26) ケンブリッジ大学での博士号取得のために作曲されたアンセム《神にあって喜べ O be joyful in God》はオード《あなたの激しい情熱のすべてがここに広まり Here all thy active fires defuse》が総譜で出版されている。
- (27) ただし、ブレイクのアンセムは目録番号67で挙げられており、ここでは手稿譜との記載がないため出版譜の存在の可能性は否定できない。
- (28) クロフトのアンセムやサーヴィスも大部分は出版されていないが、クロフトが1724年に出版した2巻の《聖なる音楽 Musica sacra》に詩編とともにアンセムが収録されている。
- (29) ニュー・グローヴではプロウの大学式典用のアクト・ミュージックの《それゆえ女神は伸ばし Diva quo tendis》などが式典用オードの分類で記載されている。
- (30) 目録番号157のローズ兄弟の兄 Henry の歌曲集は大英図書館に所蔵されており (BL: Add M.S. 53723), スミスが手放したのちに、アーノルドからグリーン・クラブの会長の職を引き継いだグルームブリッジ Stephen Groombridge (1755-1832) が入手したと考えられる。天文学者としても知られるグルームブリッジはスミスの遺言書の中にも名前が記載されている (Public Record Office, PROB 11/1509), 彼の友人であった。
- (31) ニュー・グローヴには、その後、1766年にペープシュから引き継いだ蔵書は売却され、散逸したと記されている。
- (32) ニュー・グローヴの記述から、この写本は古楽アカデミーのために筆写されたものと考えられる。
- (33) All the Songs set to Musick in the last new Opera call'd Pyrrhus and Demetrius [Words translated from the Italian of Adriano Morselli by Owen MacSwiney Music by Alessandro Scarlatti and N. F. Haym.] The whole being done from the Original by that Compleat Writer of Musick Mr. Armstrong, and by him Carefully corrected. イタリア語の歌詞が付いた版も存在する。
- (34) ただし、カンタータに関しては1698年頃にアムステルダム出版者 Estienne Roger (1665/66-1722) の手により出版されているため、この中に含まれている可能性は否定できないが、今回の調査ではこの出版譜の確認ができなかった。
- (35) 目録番号94-98, 125, 254, 256, 260。
- (36) このグリーン作品についてはバレットの言及が詳しい (Barrett 1886: 229-231)。

(よしえ ひでかず)

Robert Smith and his Musical Preferences (1): through the Research on the Sale Catalogue of his Musical Library in 1813

Yoshie, Hidekazu

Abstract

Robert Smith (1741–1810) ran his company with his business partner as a vintner in London between the late 18th century and the beginning of the 19th century. He was a keen amateur music enthusiast, and had held musical meetings at his home since 1783; which were a precursor to the Glee Club founded in 1787. As one of its leading members, Smith was engaged in managing the Club from its inception. His activities as a founder of the Glee Club and an important collector of Handel music have been mentioned briefly by some researchers. Furthermore, as had been suggested in an earlier essay by the writer, there was a strong possibility that Smith had played an important role at the Academy of Ancient Music at least since the late 1780s (Yoshie 2012). However, until Roe's research was published in 2003 (Roe 2003), very little was actually revealed about the life of Robert Smith. Besides, despite a catalogue of his Musical Library for an auction held in 1813 having been known, it has never been thoroughly researched or examined except for interest in Handel music.

In this essay, the author will initially give a brief outline of Smith's biography, mainly based on Roe's research; and later, by examining the catalogue, the writer intends to reveal Smith's actual musical preferences.

Keywords: Musical Activities in 18th Century England, Musical Library, Ancient Music, Music Publishing